

26 大英帝国文士三羽がらすの唄

本バラッドは一見して、アメリカの海賊、悪名高きポール・ジョウズの手柄の一つを歌っているようだ。
これは実話である。

・・・ある冬の暮れ方ちかく

錨を降ろし ロンドンの港に 大英帝国文士三羽がらすが停泊していた
一人はソルウェイ湾からスカイ島までを仕切る北の提督ことブラック
一人はウェセックス沿岸と付近の島々を仕切る元帥ことハーディー
もう一人はライムハウスからブラックウォールまでのテムズ川を仕切る大俠客ことペザント 5
そいつはまた艦隊従軍牧師で 三人のうちでも札付きの寝業師だった
三十フィートもある頑丈な鈍色の舷側を守るのは高性能の巨砲群
そこへ一隻の商船が 海賊にやられたとご注進に現れた
商船の索具には北の海風に巻き上げられた漂流物がこびりつき
舷側は東の海の千切れた海草がびっしり張り付いていた 10
空荷のため潮にもまれ 左に右に大きく揺れながらやって来た
船長は飲み水の樽に座り 空っぽの船倉をじっと見つめてこう言った
「みかじめ料はちゃんと払ったはずだぜ あんたらご自慢の法律はどうなってんだい
異教の港を無傷で出たのに キリスト教国の沿岸で海賊にやられるなんて
俺たちが寝床の虱を焼き殺すように あんたらはラカディープ諸島の海賊をいぶり出した 15
いまじゃ俺たちガラン島の丸木舟や海河の中国帆船に遭っても怯まないぜ
行く手の海がすかっと開いているときゃ 向かうところ敵なしだった
だがスペインのフィニテル沖を走っていたら 石灰を塗りたくったヤンキーの海賊船に出くわした
前門砲には そうとバシぬようキャンバスの覆いがかけてあった
ニューヨークからロンドンへ向かう商船だと旗を揚げていた 20
わざわざ俺たちや海賊様だよと 赤や黒のドクロ旗を揚げやしないさ
あるときは星条旗 またあるときはユニオン・ジャックを揚げるのさ
こっちの水夫を奴らの法にもとづき徴用だどよ ちょいと借りるだけだどよ
返してくれと頼んでも 水夫はお前のもんじゃねえと抜かしやがる
赤道の向こうにしかいない珍種のオウムも盗りやがった 25
横木に吊るした珍しいミカンやまだ青いパイナップルまでむしりとりやがった
苦勞して異国で手に入れた樹脂や香辛料も持って行きやがった
にやりと笑う異教の神像まで盗っていきやがった そんなもんどうするってんだい
俺の前帆柱じゃあ奴の帆桁にも 俺の甲板室じゃあ奴のボートの継当にもならねえから

畜生のヤンキー野郎は それを靴用の釘にでもして売るつもりだろう 30
暗い大波で揺れるはで まともに戦えなかったが
もしもこちとら貨物の代わりに反撃用の大砲でも積んでりゃ
汚い泥棒野郎のどてっ腹に一発 嘘こきやがったのもう一発砲弾をかませたのに
奴を後甲板から吊るし上げ 端 ^{ヤードム} 桁代わりにしてやれたのに
両耳を ^{キャップスタン} 車 地 の頭に釘付けにし ^{おおのこ} 大鋸で削ぎ落とし 35
船底の汚水で塩漬けにし そいつを生のまま奴に食わせてやれたのに
奴を目隠しして舵のないボートに放りこみ 暗闇の中揺らして腐らせてやれたのに
奴を自分の船の船尾から綱で引っ張って 兄弟分のサメの餌食にしてやりたかった
奴をココナツの皮に包んでココナツ油でべとべとにしてやれたのに
そしておのれの船のマストに ^{くく} 括りつけて俺の略奪品の上で陽に焼いてやれたのに 40
奴の皮をはいで俺のハンモックにして奴の髭を編んで綱にし 吊るしてやれたのに
奴の乗組員を奴の腐肉から伸びる青竹でみんな串刺しにしてやれたのに
全てを引きずり込む茶色いマングローブ林の泥の中に 奴を投げ込んでやれたのに
奴のかかとを奴の船の竜骨につなぎ ^{おかがに} 陸蟹の鋏にやられる様が見たかった
奴の外は清潔でも中はらい病やみで 遠くからでもぷーんと匂う 45
なんせ奴からは ^{じゃこう} 麝香船やアラブの奴隷船の臭いが抜けないからだ
商船の船長は ^{ふなおさ} 軍艦の大砲の列と 高くて冷え冷えとした乾舷を見上げた
三羽がらすはいとも ^{ていちょう} 鄭重に 商船の空になった船倉を見下ろした
三羽がらすは丁寧に甲板から飲み水の樽めがけて叫んだ
「やあ その海賊船なら わしらは君の生まれる前から取引してきた 50
君の言い草は法なき国の者のようだね だがわが帝国にはちゃんとあるぞ
ヤンキー野郎には版權法などないのだ だが奴らはわしらのことは襲わなかったぞ
わしらとて帆布や綱や帆桁を売ってきた 奴の言い値も真っ当だった
だがフィニテル沖を航行していて そんな無法者に泣かされている船もあると聞いている
君や君より立派な人が 縛り首に相応しい盗人と言うのなら 55
わが大英帝国艦隊は 奴らがまともな人間であることを証明せねばならぬ」
商船の船長は ^{ふなおさ} 船尾の高い手すりのほうを見上げて叫んだ 「それがどうしたってんだ
ヤンキーの海賊野郎が 七十三門の大砲を装備した軍艦を略奪したなんて聞いたことがあるかい
そこから見ると俺がぐーんとせりあがり ^{ちようどきゅう} 超弩級軍艦に見えるってのかい
奴は大砲からは逃げ 俺みたいなちっぽけな船を襲う術を覚えやがった 60
カリブ海のココス・キーズにゃ 俺たち白人を受け入れる法などありやしねえ
俺たちちや黒人の食べ物など盗まねえ そんなこと黒人のすることだからな
奴は著作権法など噛みタバコぐらいにしか思わず せっせと金もうけするんだろう
他国の船を襲う時ワニみていに涙をこぼすかい 畜生め なぜ盗人を働くんだ」
^{ふなおさ} 船長は海の男の言葉で噛みついた それは大人しい言葉ではなかった 65
それは三羽がらすが全艦隊に信号を送ったことが分かったからだ

白旗三枚 青旗二枚 不満げな信号が送られた

「報告があった 一隻の外国船についてだが どうやら商船らしい」と

^{ふなおさ}船長は小手をかざしてそれを見て くそったれめとののしった

「畜生 ^{ベザント}海軍従軍牧師め 海賊を祝福する気か」

70

二つ さらに三つと信号旗が挙げられ 潮風にへんぼんと ^{ひるがえ}翻った

「わしらはその商船に帆桁を売ったことがある 値段も真っ当だった」と

^{ふなおさ}船長は西洋流にウィンクし 中国の台風よろしく悪態をついた

「艦長らはヤンキー野郎の名誉とやらを守るため 目こぼししやがった」

旗綱がてっぺんでビューンと鳴り 旗はぱっと風にふくらんだ

75

^{ふなおさ}船長は船倉に唾を吐き 燃料が無駄になったと嘆いた

マストの見張りからマストの見張りへ 英国流に信号が飛んだ

^{ふなおさ}船長は東洋人の水夫に号令し 船の向きを変えて高笑いした

「主帆を揚げい 者ども また船出するぞ

奴らの海賊かぶれに染まらぬうち 四本錨でこすられぬうち

80

前帆を揚げい 船首を ^{そとうみ}外海に向けい 売り買いなど関係ねい海に揺られて行くんだ

俺たち喫水から上三十フィートもある軍艦じゃないのだから

俺たちヤンキー軍艦じゃないのだから 英国の裁判所とやりあうのはよそうぜ

スペイン沖に海賊船が出たとのみなに知らせてやろう

ヤンキー野郎の臍物を一番後ろのマストに上げて 俺たちが海の支配者だと示してやろう

85

奴の首を水深を測る ^{おもり}錘にしてひきずり 俺たちが海を仕切っているのだと示してやろう

前帆を一杯あげて波に乗り ^{そとうみ}外海に乗り出すのだ

俺たちは西洋流の商売で稼いでいる ^{ベザント}金貨は得難く ^{ハード} ^{ブラック}ああ汚い

軍艦鳥に俺の言葉をインド人やマレー人に伝えさせよう

異教の岸から船出しても キリスト教徒の港で略奪に遭うこともあるとな

90

キリスト教徒の港で海賊にやられることもあるとな それなのに三羽がらすめ

ドク口旗に敬意を表し 取引は公正だったと旗を上げ下げして敬礼してけっかる」

(榊井幹生訳)